

かんがえるって おもしろい！

がくしゅうひかりのくに

週案例

- ・ 保育絵本を活用し、しりとり遊びを楽しむ。
- ・ 紙飛行機を飛ばす遊びの中で探究心を育む。

ねらい

活動内容

環境や援助

からもご活用ください。



5月号は
お花屋さんだね。



植木鉢でお店が
できてる！

ひょうし

制作物や物語を読み取るなどして楽しむ。

いろんなお客さんが
買いに来ているね。





しぜん・かがく 2~9ページ

どうして とべるの？

ねらい

飛ぶものの仕組みに興味を持ち、紙飛行機を飛ばすことでその仕組みを体感する

活動内容

・飛ぶものの仕組みを知り身近な生き物を観察する

どんな風に
飛んでいるのかな？

チョウだ！
はねを動かして…
ひらひら飛んでるね。

ツバメは…。



環境や援助

- * 飛ぶものについて問いかけ興味を持てるようにする。
- * 生き物の観察を促す。
- * 図鑑を用意し、はね・翼の仕組みを調べられるようにしておく。



保育がひろがるぞう！ポイント

付録の紙飛行機を飛ばしましょう。

ねらい

紙飛行機で遊びながら飛ぶものの仕組みを体感し、試行錯誤を楽しむ

活動内容

- ・紙飛行機の飛ばし方を工夫して遊ぶ
- ・友達と勝負するなどして楽しむ



環境や援助

- * 「人に向けて飛ばさない」「周りをよく確認する」など注意事項をあらかじめ確認しておく。
- * オリジナルの紙飛行機も作れるよう、また、どんな紙がいいか子どもたちが考えられるよう、さまざま種類紙を用意しておく。



ことば 10～13ページ

しりとりカードで あそぼう！

ねらい

しりとり遊びの中で、言葉のおしりの音と頭の音を意識し言葉の中から音（文字）を取り出す

活動内容

- ・ しりとりのルールを確認する
- ・ 友達と協力してしりとり遊びを楽しむ

「かめ」のおしりの音は何か？



「め」だよ。
だから「めろん」か
「めがね」！

でも「ん」が
付くとしりとりが
終わっちゃうから…



環境や援助



- * 10～11ページでしりとりのルールを丁寧に確認する。
- * 一人では難しい子がいる場合はグループを作って取り組めるようにする。



保育がひろがるぞう！ポイント

ダウンロード付録のカードをぜひご活用ください！

ねらい

しりとりを長くつなげ、頭の音とおしりの音を取り出せるようになる

活動内容

- ・しりとりが長くつながるように友達と考えて楽しむ
- ・オリジナルのカードを作って遊びを発展させる

「らっこ」に
続けるから
「こ」だね。

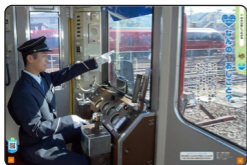
「こたつ」が
あるよ！

「こま」のカードを
作ってもいいね。



環境や援助

- * 13ページのひろがリンクからしりとりカードをダウンロードしカードを用意しておく。
- * オリジナルのしりとりカードを作れるよう準備しておく。



しゃかいの おはなし 14～25ページ

なんの おしごと？

ねらい

電車の運転士さんのお仕事への思いを知り、憧れと感謝の気持ちを育む

活動内容

- ・電車や運転士さん、駅で働く人に興味を持ち感謝の気持ちを育てる
- ・将来の夢について話し合う



電車には運転士さんと
車掌さんがいるんだね。
駅ではどうかな？

改札であいさつして
くれる人がいるよ！



掃除をしている人も
見たことある。



環境や援助

- * 「車掌さんはどんなお仕事かな？」など運転士さんの他にも駅で働いている人について考えられるよう言葉をかける。
- * 将来の夢について話し合う時間を設ける。



かず 26～33ページ

こどもの ひを おいおいしよう！

ねらい

5が「1と4」「2と3」「3と2」
「4と1」から構成されていることに
気付く

活動内容

- ・5の数の構成について誌面で遊びながら気付く
- ・数に関わる言葉を使いながらシール遊びを楽しむ

今何匹飾ってあるの？
あと何匹貼るのかな？

1、2、3…
4匹だよ。
だからあと1匹！

私は今2匹だから…。



環境や援助

- * 「あと」「残りは」「全部で」など数の操作に関わる言葉を意識的に使うようにする。
- * 日常生活で5の数が出てきた際に5の構成について復習する。



みんなで はなしあおう！ 34-35ページ

使いたいものが同じだったら…

ねらい

友達と話し合い、聴き合うことで多様な見方や問題解決があることを考える

活動内容

- ・自分の考えを表したり、友達の考えを聴いたりする
- ・思いや考えを言葉で表しながら友達と活動する

完成させたあとに
すぐタイヤを渡す！



ちゃんと友達と
相談するよ。



じゃあみんなは
これからそうしようね！

環境や援助

- *子どもたちから経験を引き出し状況を身近に感じられるようにする。
- *子どもたちから出た意見を生活の中で思い出せるように都度言葉をかける。